

◆平成 25 年度 第 2 回 建設事業外部評価委員会 議事要録◆

1 日時 平成 25 年 9 月 27 日（金） 13:30～15:00

2 場所 神戸市役所 1 号館 14 階 大会議室

3 出席者

○委員

道奥康治会長、井上定子委員、大内ますみ委員、長濱伸貴委員、福島徹委員、
船木伸江委員、山村充委員（松村暢彦委員は欠席）

○事務局

建設局長 ほか

○事業者

水道局（事業部・経営企画部）

4 議事

1) 第 1 回委員会審議資料の修正に関する報告

○大容量送水管整備事業（2，3 工区）

2) 意見とりまとめ

○大容量送水管整備事業（2，3 工区）

5 議事要旨

○第 1 回委員会審議資料の修正に関する報告

- ・ 水道局が大容量送水管整備事業（2，3 工区）について、第 1 回委員会審議資料の修正に関する報告を行った。
- ・ 委員より、「前回の委員会では、便益の算出方法について、厚生労働省と協議中であるという説明をされていたか？」との意見があり、
水道局は、「協議中ということは、はっきりとは申し上げませんでした。内容に関する最終調整を並行して進めておりましたが、不確定というほどの状況ではありませんでした。」と説明した。
- ・ 委員より、「代表地震を南海地震にするというのは、厚生労働省の指示であり、その発生確率は、兵庫県地域防災計画を用いているということではよいか？また、費用対効果の検討において、南海地震以外の地震については、発生確率が小さいので計算に加えないということではよいか？」との意見があり、
水道局は、「はい、その通りです。本来、対象地震については、南海地震だけでなく、山崎断層の地震などでも、被害想定に発生確率を乗じた値を計算し、それらを積み上げるのですが、今回は、南海地震以外の発生確率が小さいことと、南海地震のみで十分な費用対効果が得られていることから、このような結果としております。」と説明した。

- ・ 委員より、「50 年間という期間は、前回から提示されていたか？」との意見があり、水道局は、「はい。費用対効果の分析は、全体事業費や便益を 50 年間に換算して行っています。地震についても 50 年間の発生確率で議論しています。この 50 年間という期間は、費用対効果分析マニュアルに記載されているものです。」と説明した。
- ・ 委員より、「今回の修正で B/C が若干低くなったが、第 1 回の審議結果が変わることはない。」との意見があった。

○意見とりまとめについて

- ・ 委員会の意見とりまとめについて、会長が『平成 25 年度「大規模の建設事業」の評価に関する意見』（以下、意見書という）の素案を提示した。
- ・ 意見書（素案）の内容について、「事業についての意見」の審議を行い、その後「前文」の審議を行った。
- ・ 審議の結果、別紙『意見書（案）〈見消版〉』が取りまとめられた。
- ・ 会長から、「意見書に関して、文書等細部の調整については、私に一任していただければと思いますが、如何ですか」という提案があり、委員会はこれを了承した。

○今後の予定について

- ・ 本日審議した『平成 25 年度「大規模の建設事業」の評価に関する意見』は最終取りまとめのうえ、神戸市長へ提出する。

○第 2 回委員会の審議をもって、平成 25 年度の建設事業外部評価委員会を終了した。